

2024年度 夏期エリアスタディーズ ピッツバーグコースを実施しました！



現地学生によるキャンパスツアー



アーバンファーム体験



ネット・ゼロ・エネルギー
フィツプス温室植物園見学



日本語クラブ主催の学生交流会



ダウンタウン散策



グループプレゼンテーション

2024年9月4日から9月14日までの11日間、アメリカ・ペンシルベニア州ピッツバーグにあるピッツバーグ大学の協力のもと、エリアスタディーズ(短期留学体験型集中科目)を実施し、学部生14名及び大学院生1名が参加しました。

現地では、キャンパスツアーや日本語の授業への参加を通して、ピッツバーグ大学の学生と交流を深めました。また、農業体験や植物園見学等のフィールドワークを通じ、ピッツバーグでのサステナビリティに関連する取組みについて学びました。最終日には、これらのフィールドワークで学んだ内容や、事前授業で各自が調べた内容をもとに、ピッツバーグと神戸市それぞれの持続可能な社会づくりについて、グループプレゼンテーションを行いました。

さらに、文化体験として、ピッツバーグを本拠地とするメジャーリーグ球団パイレーツの試合を観戦したほか、ダウンタウンエリアの散策や、ボルダリング体験等を行いました。

今回のエリアスタディーズでは、現地学生及び教職員の多大なサポートにより、活発な交流が実現でき、数々の貴重な学びを得ることができました。参加学生にとって非常に充実した、思い出に残る11日間となりました。

参加学生の声

・入学した頃から留学したいという思いがあったので、まずは夏休み期間中に行けるプログラムに参加することにした。フィールドワークやプレゼンテーション、アクティビティを通して、ピッツバーグの大学生ととても仲良くなれて楽しかった。関わった全員が私たちに優しくしてくれ、活動以外の自由時間でもピッツバーグを案内してくれたり、一緒に時間を過ごしてくれて嬉しかった。本当に参加してよかった。

・初めての海外だったため、引率がいって安全面への配慮が十分である点に魅力を感じた。毎日が刺激的で充実していて、あっという間だった。海外で友達ができ、英語力をつける上で本当に必要で優先して学習すべきことがわかった。学んだことをすぐ活かせる環境がよかった。

・学びの面も楽しさの面もとても満足できるもので、現地の学生ととても仲良くなることができた。外国の人との交流をもっと増やしたり、英語をもっと勉強していきたい。

・英語を使ってコミュニケーションをしたり、アクティビティでSDGsを学ぶことができた。日本ではあまり見られない取組みやアクティビティに参加することができ、有意義な時間を過ごせたと感じた。



COIL (Collaborative Online International Learning) について
COILとは、ICTを活用した海外の学生との協働学習のことです。エリアスタディーズピッツバーグコースは、オンラインと対面を併用したハイブリッド型COIL授業として実施されました。

全学共通教育センターの山本シャリー准教授とジャパンスタディーズ担当のHari Srinivas先生、ピッツバーグ大学人文科学部東アジア言語文学科のElizabeth Oyler先生、同大学で日本語を担当されているShun Maruyama先生がCOILパートナーとして協力し、本学の学生15名とピッツバーグ大学の学生15名が参加しました。

次回エリアスタディーズのお知らせ

2024年度
春期エリアスタディーズ募集説明会

《 岡本キャンパス 》

10月23日(水)：概要説明会 + 体験談

10月28日(月)：アメリカ(シリコンバレー)

10月29日(火)：ベトナム

10月30日(水)：韓国

10月31日(木)：マルタ